

兵庫・見蔵岡遺跡 みくらおか

- 1 所在地 兵庫県城崎郡竹野町松本字入谷ほか
- 2 調査期間 一九九三年度調査 一九九三年(平5)五月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 竹野町教育委員会
- 4 調査担当者 松井敬代
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代中期末～一四世紀頃
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(城崎)

見蔵岡遺跡は、兵庫県の最北端、猫崎半島の延びる竹野海岸から南方約1kmに位置している。このあたりは香住町とともに旧但馬国美含郡竹野郷に属する。遺跡は、竹野川の右岸にあたる字竹野・松本にまたがり、西面する山裾の水田と、東から延びる山塊の先端丘陵部に立地する。標高は5m～10m前後を

測る。

調査は、中学校建設に伴う全面発掘調査で、範囲は一万㎡に及ぶ。三月末で約四八〇〇㎡の調査を終了した。

調査の結果、遺跡はほぼ調査区の全体に及び、なかでも北側の山裾の開口部に近い区域に大型の建物が集中している。遺構は総柱建物群で、二～三棟を単位として、数度の建て替えを行なっている。柱根の径は最大三〇cm、ほとんどの柱に面取りを施している。柱穴の最大径は一二〇cmで礎石はもたないが、礎板や根石で固定している例がある。また、建物の中には雨落溝をもつものもある。他の遺構としては、土墳墓及び木棺墓、不明土坑などがある。

遺物の出土量はあまり多くなく、整理用コンテナに約五〇箱ほどである。木製品の遺存が良好で、木簡のほか、建築部材・下駄・横櫓・円板状木製品・漆碗・漆塗り容器などがある。土器は土師器が大半を占め、なかに東播系須恵器・貿易陶磁器が散見される。土師器杯・皿、瓦質甕・鉢・火舎、黒色土器A類、須恵器片口鉢、中国製青磁碗・皿、白磁片などがある。その他の遺物には、土墳墓からまとまって出土した銅銭・刀子・鉄釘・土錘などがある。

当遺跡の存続時期は、一二世紀末から一四世紀頃と考えられる。中世初頭の竹野郷に関する文献史料はほとんど残されていないが、「但馬国太田文」によると、公領(国衙領)であり、幕府から地頭が配され、当地の御家人が公文をしていたことが記述されている。し

かし、文永八年（一二七二）に比叡山延暦寺講堂の修造料所とされている『天台座主記』。

木簡は、五間×九間の東廂付き建物の柱穴から出土した。この建物の柱穴の径は七〇cm～一〇〇cm、柱の径は二五cm前後である。南北に長い桁行二二・二m（七四尺）、梁行一二・四m（四一尺）の大型の建物で、面積は二七五㎡を測る。木簡は、柱穴の掘形の底に近い部分でみつかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「前分一斗四升三合」

・「勘」
□ □ □ □
〔雑カ〕

(99) × 19 × 3.5 039

表裏は判然としないが、とりあえず文字の残りのよい面を表としておく。「前分」が何を意味するのかわからないが、そのあとに続く数字から、米などの物品の量を示す木簡であろうと考えられる。裏面は判読可能な文字から、「勘所」「勘納」「勘収」などが考えられ、物品の受け取りを示す文章になろう。共伴の遺物から、鎌倉時代前半にかかる木簡であると思われる。

当遺跡の性格を考えると、大型の建物群と井戸、屋敷内埋葬が認められること、木簡の出土、中国製青磁・白磁の優品が比較的につくことなどからみて、在地有力者の屋敷跡であり、少なくとも数代にわたってこの地に居住したのは間違いなからう。調査が継続中

ということもあり、遺跡の性格など、詳細な検討は今後の課題である。

（松井敬代）

